



子供たちのため安全に 砂利入れ直し水ゴケ掃除

飯高駅裏の
ちやぶ水場



飯高町宮前地区の
宮前まち

松阪市
飯高町宮前地区の
宮前まち
会が一昨年6月に設け

づくり協議会(田中鈴児会長、約550戸)は、本格的な夏の到来を前に、11日午前8時から飯高町宮前の道の駅飯高駅裏手の「いたかちやぶちやぶ水場」を整備し直した。子供たちがけがなく遊べるようにと、約9トの砂利を水底や通路に入れてならした。



石が現れて水ゴケが生えていた。この日は、本部役員や自治会長ら計20人が、雨の降る中作業し

夏には、近くのこども園園児のほか、道の駅の来訪者などでにぎわう。子供が素足で歩いてもけがをしないよう細かい砂利を敷いてあるが、台風などで流れてしまい、

た。竹ぼうきなどで水ゴケを落とし、地元の銹尾鍋組(尾鍋哲也代表取締役)が重機を出して協力し、大量の砂利をまいてスコップでならした。向坂文一事務局長(73) Ⅱ

飯高町下滝野Ⅱは「子供が喜んでくれるし、年1回の整備が住民同士のつながりを深めるコミュニケーションの場にもなっている。安心して遊んでもらえるので、ぜひ来て

ください」と話していた。今年は、バケツやスコップなどの水遊び道具も準備したとしている。

基本計画と設計は 今年度にまとめる

市、新最終処分場整備で

松阪市は、上川町の市最終処分場の隣接地に新しい最終処分場を建設することにしているが、今年度は整備事業基本計画と基本設計をまとめる。

2017(平成29)年

9月に市が示した新最終処分場基本構想によると新しい処分場の建設候補地は、現在の処分場の南東側の「上川町・山添町の境界付近」。埋め立て

期間は26(令和8)年度から70年度まで45年間としているが、市清掃政策課はあくまで現在の計画なので不透明な部分があると述べている。

この45年間に、計画地内で15年ごと3期にわたって拡張しながら埋め立てて行く。容量は計8万1千立方メートルになる。

基本構想に基づく基本計画と基本設計の業務委託の入札は今年2月に入り、パシフィックコンサルタンツ(株)三重事務所(津市)が4890万円(税抜き)で落札した。